

環境活動レポート

(対象期間:平成28年 4月～平成29年 3月)



MSR

作成年月日:平成29年 4月17日

溝口瀬谷レミコン(株)

吉原レミコン工場

目次

1. 組織の概要	P-1
2. エコアクション21（対象範囲と組織図）	P-2~4
3. 環境方針	P-5
4. 環境目標	P-6
5. 環境活動計画	P-7
6. 環境活動の取組評価	P-8
環境活動の取組み	P-9
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果並びに 違反、訴訟等の有無	P-10
8. 経営者による全体評価と見直し結果	P-11

【その他添付資料】

- 環境コミュニケーション受付表
- 問題の是正及び予防処置

1) 組織の概要

(1) 事業所及び代表者名

溝口瀬谷レミコン 株式会社
代表取締役社長 青木 俊宏

(2) エコアクション21対象事業所 所在地

吉原レミコン工場 : 〒417-0072 静岡県富士市浅間上町15-36
(2016年 6月17日 エコアクション21取得)

本社・溝ノロレミコン工場 : 〒213-0031 神奈川県川崎市高津区宇奈根764
(2020年 エコアクション21取得予定)

瀬谷レミコン工場 : 〒246-0002 神奈川県横浜市瀬谷区北町20-7
(2020年 エコアクション21取得予定)

(3) 環境管理責任者氏名及び環境事務局担当者連絡先

環境管理責任者 常務取締役事業所長 望月 勤
環境事務局担当 佐野 直人
連絡先 Tel 0545-52-5237 FAX 0545-52-5012
URL: <http://www.d-s-s.co.jp/mizoseya/index.html>

(4) 事業の規模

①全体

活動規模	単位	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
生コン出荷量	m ³	310,063	301,593	258,138	257,010
売上高	百万円	3,349	3,635	3,196	3,610
従業員数	人	70	72	72	72

②吉原レミコン工場 (認証対象範囲)

活動規模	単位	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
生コン出荷量	m ³	50,202	38,500	33,017	32,022
売上高	百万円	583	482	408	400
従業員数	人	14	16	15	16
事務所床面積	m ²	243	243	243	243
工場敷地面積	m ²	4,600	4,600	4,600	4,600

(5) 当社の事業内容

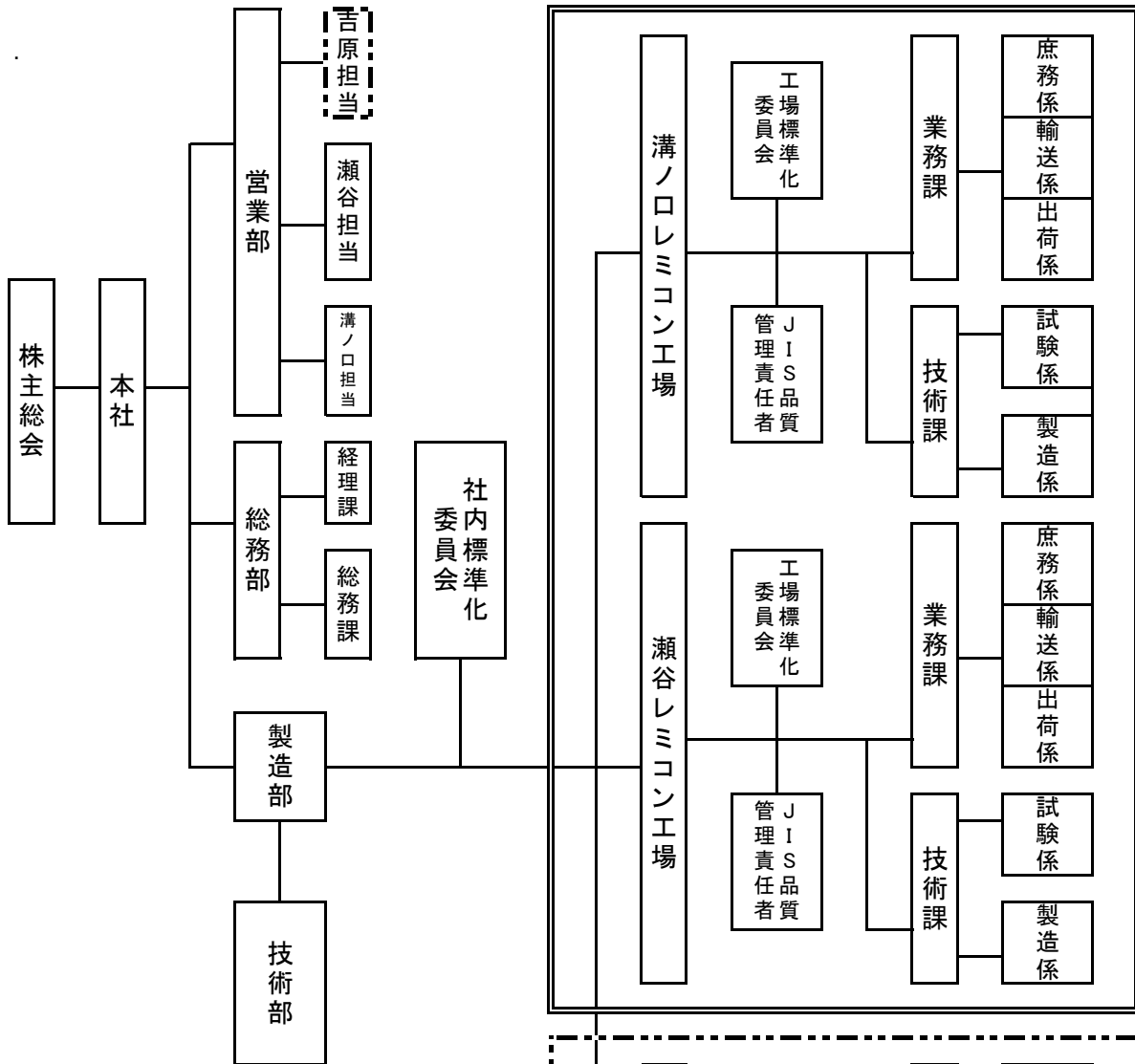
- 生コンクリートの製造、販売
- その他関連製品の販売

2) 対象範囲

(1) 組織の全体図 (2017年4月1日現在)

対象範囲

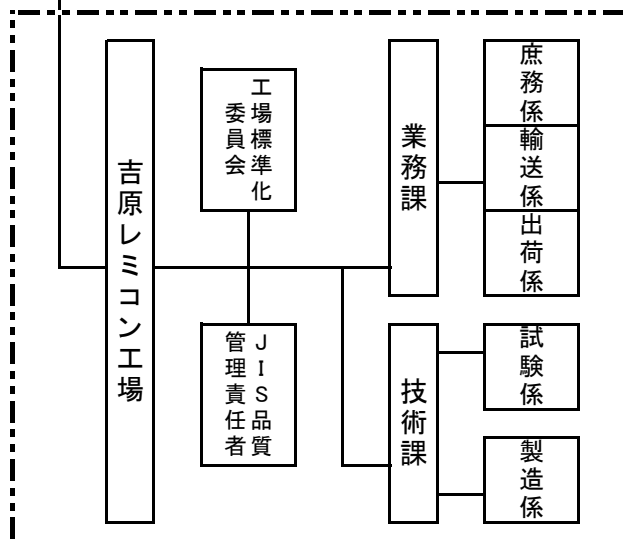
次回対象範囲



(2) 組織の拡大

①2020年6月までに、溝ノ口・瀬谷レミコン工場まで拡大。

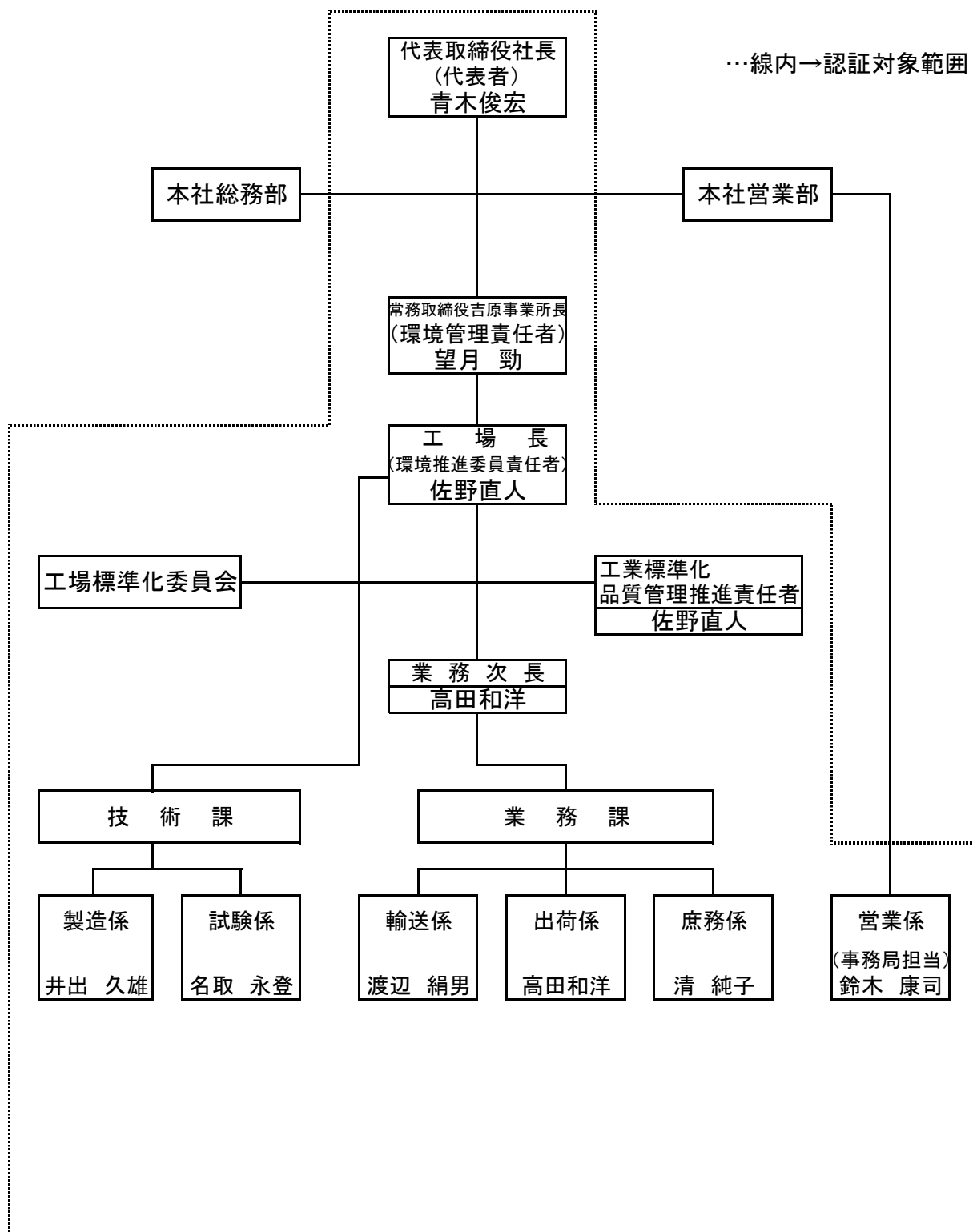
②以降全社認定に向け段階的に拡大。



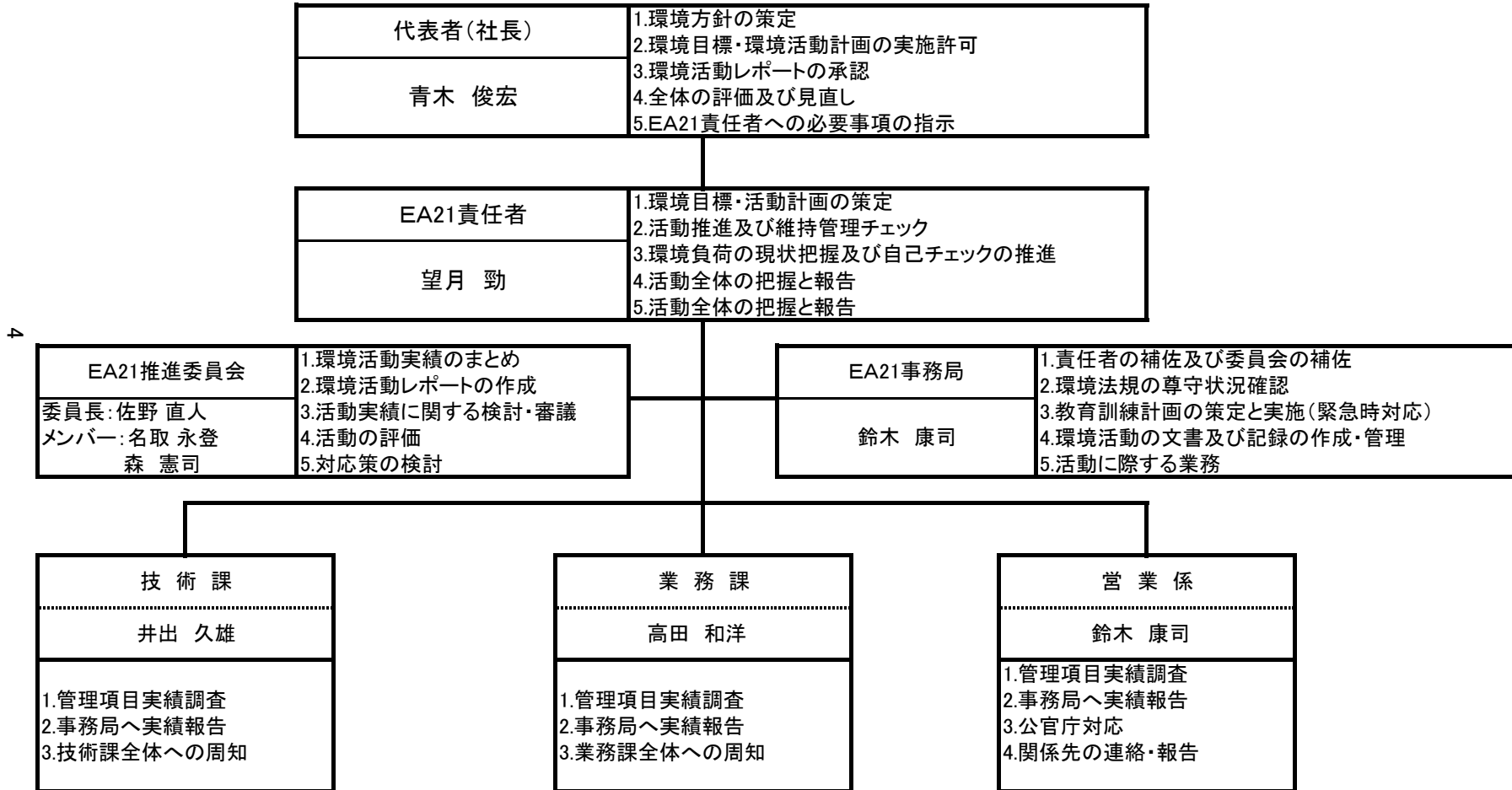
2. 認証の対象範囲

(2017年 4月 1日現在)

工場組織図



2. EA21推進組織図



3 環境方針

溝口瀬谷レミコン株式会社 吉原レミコン工場 環境方針

[環境理念]

溝口瀬谷レミコン株式会社 吉原レミコン工場は、生コンクリート製造を通じて建設事業に貢献し、地域発展に寄与する組織を作り、環境保全に努め、且つ人と社会のより良い共存を目指します。

[基本方針]

当社は環境理念に基づき、以下の基本方針を定め、継続的な環境経営を展開します。

1. 二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排水量等の削減に努めます
 - 1) 電気、軽油、ガソリン等の使用量削減に努めます。
 - 2) 各個々が廃棄物の削減に努めます。
 - 3) 節水活動による水使用量の削減に努めます。
 - 4) 化学物質の適正使用に努めます。
2. 環境関連法規制等の遵守
環境関連法規制を遵守します。
3. 環境コミュニケーションの実施
 - 1) 社外に環境活動レポートを公開し、利害関係者のみならず社会とのより良いコミュニケーションを図って行きます。
 - 2) 社内においては、全従業員に環境方針を周知し、5S活動に努めます。

制定年月日 平成29年 3月26日

溝口瀬谷レミコン 株式会社

代表取締役社長 青木 俊宏 印

4. 環境目標

(1) 吉原レミコン工場

従業員数:16人 車両:26台(軽油 16台、ガソリン 6台)

管理番号	管理項目	単位	2015年度実績	目標削減率	目標	2016年度実績	2016年度目標からの増減(%)	2016年度目標達成判定	修正削減率	2017年度暫定目標	評価	管理項目	2015年度実績	2016年度実績	2017年度暫定
	生コン出荷量	m ³	33000.00			32022.00				30000.00					
①	CO2総排出量	kg-CO2	325145.6	-1%	321894.1	320411.3	-0.46%	△	-0.5%	318809.2	まずまずの達成度であるが、出荷量に左右される。		9.71	10.01	10.63
②	一般廃棄物	kg	170.6	-6%	160.4	170.9	6.55%	××	0%	170.9	削減率の設定より12%の増加は、要対策が必要。		10.66	10.68	10.68
③	産業廃棄物	t	1524.2	-2%	1493.7	1731.1	15.89%	××	-0.2%	1727.7	大幅に増加した事は、早急に取り業者にも協力を求む様にする。	原単位管理	0.046	0.054	0.058
④	上水(水使用量)	m ³	329.0	-2%	322.4	318.0	-1.36%	△	-1.5%	313.2	少し削減率を下げて、目標達成を目指す。		20.56	19.88	19.58
⑤	購入電力	kwh	202752.0	-1%	200724.5	206099.0	2.68%	×	-0.5%	205068.5	出荷量が減っているのに電力が増加しているのは、環境対策電力の増加と思われる。		6.144	6.436	6.836
⑥	灯油使用量	L	340.0	-1%	336.6	240.0	-71.30%	◎	-5.0%	228.0	十分な達成度である。		21.3	15.0	14.3
⑦	ガソリン使用量	L	6885.9	-1%	6817.0	5517.6	-19.06%	◎	-3.0%	5352.1	十分な達成度である。		1147.7	919.6	892.0
⑧	軽油使用量	L	76516.3	-1%	75751.1	75331.4	-0.55%	△	-0.5%	74954.7	少し削減率を下げて、目標達成を目指す。		2.32	2.35	2.50
⑨	LPG使用量	kg	298.3	-1%	295.3	224.4	-24.01%	◎	-2.0%	219.9	十分な達成度である。		18.64	14.03	13.74
⑩	グリーン購入(事務用品)	品目	購入品目なし	-	購入品目の拡大	購入品目2点	2点購入	○	購入品目2点	購入品目更に2点	更に拡大を検討。		-	-	-
⑪	全国統一品質管理監査	適合の評価	全項目A	-	全項目A	全項目A	全項目A	-	-	全項目A	全項目A評価を目指す。		-	-	-

※原単位管理:①③⑤⑧ 生コン1m³当り、⑦ 対象車両当り、②④⑥⑨ 従業員1人当りに換算して管理(参考値とする)

※CO2電力算出係数:平成26年 東京電力 CO2電力算出係数「0.53kg-CO2/kwh」で換算

※赤はマイナス

※判定は、目標より10%以上削減が◎、1~9.9%削減が○、±0~0.9%が△、1~9.9%増加が×、10%以上増加が××

5) 環境活動計画

取組項目・目標			対象部署	担当者	年間スケジュール 2016年4月～2017年3月												
項目	削減目標	活動内容			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
エネルギー	二酸化炭素排出量の削減	CO ₂ 排出量 前年比 △0.5%	①不要なアイドリング禁止	輸送	瀧口	7~10分	← 5分～7分 →						←7～10分→				
			②急発進・急加速の禁止			←年間を通じて実施→											
			③効率的な荷卸しルートの選定・検討			←年間を通じて実施→											
			④ドラムの高速攪拌禁止			←年間を通じて実施→											
		①運行管理(走行距離・給油量等)	庶務	清	←年間を通じて実施→												
		②低冷暖房運転の励行			22℃	なし	←26℃→			なし	←22℃→						
		①エアコンの設定温度を夏期26℃、冬期22℃に設定	事務所 休憩室	佐野				←26℃→						←22℃→			
		②クールビズ、ウォームビズの実施						←クールビズ→						←ウォームビズ→			
		③空調フィルターの定期清掃(夏・冬前)			試験室 会議室				実施						実施		
		①デマンドコントロール(契約電力の制限)	事務所	佐野	←年間を通じて実施→												
②高効率照明の採用(LED・センサー・太陽光発電etc..)	全体	名取			←年間を通じて実施→												
③未使用設備の電源OFF					←照明全体→												
リサイクル	廃棄物排出量の削減	前年比 △0.2%	①戻りコンクリートの削減	営業・出荷	高田	←年間を通じて実施→											
		目標設定なし	②コピー用紙の両面使用	事務所	清	←年間を通じて実施→											
			③封筒の再利用			←年間を通じて実施→											
			④不適合品の削減	製造	井出	←年間を通じて実施→											
省資源	水	目標設定なし	①洗車時の節水	輸送	渡辺	←年間を通じて実施→											
			②水漏れ点検の実施	庶務	清	←毎月1回実施→											
			②地下水の節約	試験	名取	←毎月1回実施→											
品質管理	品質監査	全国統一品質管理監査の適合	コンプライアンスに係る社内標準及び社内基準の推進	全体	佐野(品質管理責任者)	←年間を通じて実施→											
その他	環境配慮	設定なし	①エア機器のエア漏れチェック	製造	小野	←年間を通じて実施→											
			②5S活動の実施	全体	佐野	←実施→	チェック	←実施→	チェック	←実施→	チェック	←実施→	チェック				
			③グリーン商品の購入	庶務	清	←毎月1回実施→											

6)環境活動の取組評価

(1)吉原レミコン工場(認証対象範囲)

管理番号	管理項目	単位	2015年度実績	目標削減率	目標	2016年度実績	実質削減量	評価※	削減率修正値	2017年度目標削減率	2017年度目標
	生コン出荷量	m ³	33000.00			32022.00	-		-	-	
①	CO2総排出量※	kg-CO2	325145.60	-1%	321894.1	320411.3	-1482.8	×	+0.5% 上方修正	-0.5%	318809.2
②	一般廃棄物	kg	170.6	-6%	160.4	170.9	+10.5	×	+6.0% 上方修正	0.0%	170.9
③	産業廃棄物	t	1524.2	-2%	1493.7	1731.1	+237.4	×	+1.8% 上方修正	-0.2%	1727.7
④	上水(水使用量)	m ³	329.0	-2%	322.4	318.0	-4.4	×	+2.5% 上方修正	-1.5%	313.2
⑤	購入電力	kwh	202752.0	-1%	200724.5	206099.0	+5374.5	×	+0.5% 上方修正	-0.5%	205068.5
⑥	灯油使用量	L	340	-1%	336.6	240.0	-96.6	○	-4.0% 下方修正	-5.0%	228.0
⑦	ガソリン使用量	L	6885.9	-1%	6817.0	5517.6	-1299.4	○	-2.0% 下方修正	-3.0%	5352.1
⑧	軽油使用量	L	76516.3	-1%	75751.1	75331.4	-419.7	×	+0.5% 上方修正	-0.5%	74954.7
⑨	LPG使用量	kg	298.3	-1%	295.3	224.4	-70.9	○	-1.5% 下方修正	-2.0%	219.9
⑩	グリーン購入(事務用品)	品目	購入品目なし	-	購入品目の拡大	購入品目2点	-	○	-	-	購入品目+2点
⑪	化学物質(塩酸)	L	12000	-	設定しない	11000	-	-	-	-	-
⑫	全国統一品質管理監査	適合の評価	全項目A	-	全項目A	全項目A	-	○	-	-	全項目A

※CO2電力算出係数:平成26年 東京電力 CO2電力算出係数「0.53kg-CO2/kwh」で換算

※評価の指標:達成度 ○80%以上 ×80%未満

環境活動の取組み

◆定期会議で活動内容の話し合い◆



◆省エネライトの導入◆



☞構内のライトをLEDに一部変更



センサー付きライトを構内4台目設置

7) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規等の遵守状況

当工場に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

評価日 平成29年 4月17日
 評価者 環境管理責任者 佐野 直人

法規制等の名称	遵守(適用)事項または規制基準値	当社の適用及び対応	遵守評価			
産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物中間処理業者との委託契約	契約書の締結	○			
	廃棄物収集運搬業者との委託契約	契約書の締結				
	マニフェストの管理	B2票、D表、E表の返却				
	マニフェストの期間内返却	90日又は180日以内	○			
	マニフェストの保存	5年間保存	○			
水質汚濁防止法	工場排水水素イオン濃度(PH)	排水中和装置を設置し定期点検で確認	○			
	<table border="1"> <tr> <td>総理府令</td> <td>県条例</td> <td>工場規制</td> </tr> <tr> <td>5.8~8.6</td> <td>6.0~8.5</td> <td>6.0~8.5</td> </tr> </table>			総理府令	県条例	工場規制
総理府令	県条例	工場規制				
5.8~8.6	6.0~8.5	6.0~8.5				
騒音規制法 振動規制法	規制基準値の順守	近隣クレームなし	○			
循環型社会形成推進基本法	廃棄物に関する循環的な利用の促進	業者と諸条件が合意すれば実施	-			
消防法	消防用設備の設置・点検	半年に1回専門業者点検	○			
家電リサイクル法	指定家電の廃棄時	リサイクル料金の支払(廃棄時)	○			
自動車リサイクル法	自動車の廃車時	廃車時許可業者へ引取り依頼	○			
リサイクル法	適正廃棄	パソコン、二次電池廃棄時	○			

2. 違反、訴訟等の有無

過去3年間において、関係機関からの指摘、近隣住民からの訴訟はありませんが、軽微な騒音の苦情が発生したため速やかに原因追究し、対応・処置をおこなっております。

8) 代表者による全体評価と見直し結果

2016年度（2016年3月～2017年3月）の評価を総評させていただきます。

3工場で1つの企業を成している弊社ですが、3工場とも隣接しているわけではなく、川崎・横浜・富士と、地域密着型として運営させて頂いている次第です。

2011年東北の大地震以降、弊社もエネルギー問題と向き合ってきました。電力の供給問題にも真摯に向き合ってきたつもりでしたが、まだ一企業として何をすべきなのか、今後どうすればいいのか確立していない状況が続きました。吉原レミコン工場が先陣きって環境に配慮した活動をさせて頂き、環境に配慮する事がゆくゆくは企業の利益にも繋がるということも、デジタル化することで分かり易くなりました。

データを取り続ける事の辛抱強さを学び、その年の反省をしていく事が大切であると思えます。

全体的に削減が顕著に見られるが、製品の出荷量が大幅に減ってきており、業務の縮小からの削減という懸念も否めないのが、喜ばしい結果とは言い難いが、業務の量に沿った削減対策を平成29年度は確立したい。

平成29年3月25日

溝口瀬谷レミコン 株式会社

代表取締役社長 青木 俊宏

【添付資料 1】 環境コミュニケーション受付表

作成・管理担当： 佐野

NO.	情報入手日	情報種類	通報者	通報方法	住所	内容	回答の必要性	対応内容
					連絡先			
1	平成28年 1月30日	対応、苦情	社員	電話・メール (会議)	- -	運輸部門にて実行できる事	必要・不要	・運転において、急発進・急ハンドルを止め、冬場のアイドリング時間を5分間とし、運転中のエアコン温度を24℃以下とした。
2	平成28年 3月16日	対応、苦情	佐野	電話・メール (会議)	- -	5 S 活動実施状況報告	必要・不要	・構内の清掃状況 ・各自持ち場の整理整頓
3	平成28年 6月16日	対応、苦情	佐野	電話・メール (会議)	- -	5 S 活動実施状況報告	必要・不要	・アイドリング時間の確認と周知 ・車内の私物の整理整頓をチェック
4	平成28年 9月16日	対応、苦情	佐野	電話・メール (会議)	- -	5 S 活動実施状況報告	必要・不要	・アイドリング時間の確認と周知 ・修理場と倉庫の整理整頓チェック
5	平成29年 2月 8日	対応、苦情	佐野	電話・メール (会議)	- -	年間のまとめ・報告	必要・不要	・各部署別の活動内容の報告 ・年間を通しての活動チェック

【添付資料 2】 問題の是正及び予防処置

記録日 平成29年 3月26日

担当者 佐野

	日付	対象項目	原因	是正及び予防処置
1	平成29年 3月26日	高アルカリ水の PH中和装置	・設備の全体的な老朽化と酸化による劣化	・外注の管理会社の定期検査の際に担当者より、全体的な劣化が見受けられるとの診断を受け、瓦解・塩酸の漏洩を懸念し、予防処置として全体の新規設置し直す。
2				
3				
4				
5				